

千葉大学理学部 教育課程編成・実施の方針

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 自立した社会人・職業人として要求される総合的能力と倫理観を身につけることができるように、普遍教育と理学の基礎を修得するための専門教育をバランスよく編成し、提供する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 自己の専門領域の社会的、文化的位置づけを理解し、自己の専門的能力を持続的な社会の発展のために役立てることができるように、幅広い視野の醸成、批判的精神の涵養、豊かな教養に裏打ちされた全人的な人間性の陶冶を目的とする普遍教育と専門教育をバランスよく編成し、提供する。
- 諸課題が地球規模となる時代に対応した学修環境を整備し、地球規模の課題を解決する能力を涵養するために、多様な留学の機会を提供する。同時に、地域を支える人材育成に取り組む。
- 学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

「普遍的な教養」を涵養するために

- 国内外の多様な文化・価値観、社会、自然、環境を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、人類や社会が直面する課題について多面的な認識及び取り組みの姿勢を持つことができるように、普遍教育科目を体系的に履修できるようにする。
- 普遍教育と専門教育をつなぐ横断的な学修の機会を提供する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 専門領域での必須事項を段階的・体系的に修得できる教育課程を編成し、提供する。
- 実験や実習あるいは演習、さらには卒業研究を通して、修得した専門領域での知識、論理的思考や手段を、学生が主体的に活用できる実践的な学修の機会を提供する。
- 社会に貢献し、知識集約型社会を牽引するイノベーション創出のための学修環境づくりを進める。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 演習、卒業研究および実験・実習の結果発表会を通して、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を目指す実践的な学修の機会を提供する。
- 普遍教育の「英語科目」や理学部と各学科が提供する英語科目を通して、英語の基礎能力を高める学修の機会を提供する。
- 情報通信技術などの利用も含め、種々の方法で必要な情報やデータを適切に収集、分析、活用、発信し、知的財産権や情報倫理にも配慮しつつ利用すること

ができるように、普遍教育の「数理・データサイエンス科目」と専門教育における情報関連科目を提供する。

- 他者と協調・協働して行動し、主体的・能動的に問題解決に取り組むことができる能力の涵養のために、協働で行う実験や実習の機会を提供する。
- 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会的要求を踏まえて自らが立てた新たな課題を解決できるようにするために、卒業研究等の学生自身による自主的・実践的研究の場を提供する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うため GPA 制度を採用するとともに、事前・事後学修の明示や履修登録単位数の上限設定等により、単位の実質化をはかる。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。